

シリーズ
「十人十色のしあわせ小箱」

「押し」の先に 見えたもの

鉄道愛で3セク社長、ゲームに恋したフランス人……



読売新聞東京本社社会部

読売新聞アーカイブ選書

シリーズ「十人十色のしあわせ小箱」

「推し」の先に見えたもの

鉄道愛で3セク社長、ゲームに恋したフランス人……

読売新聞社刊

(1) 県境を越えて

新たな世界への入り口／歩いてまたいで満足感／車でクネクネ降りてウロウロ／忍び寄るあのフレーズ／もっと身近に「新発見」

(2) 仏教を届ける

仏法フリースタイルで／祖父の思い知り跡取りに／駆け込み寺地域に寄り添う／相談サイト「ありがたし」／仏の教えあの手この手で

(3) 風太を愛して

動物園へ年200日／恋も別れも一家を見守り／法律知識グッズに生かす／「功績」漫画で伝えたい

(4) ゲームを守る

80年代ソフト「絶滅」危機／画面の日本語さっぱり／渋谷をプレー中一大決心／芸術性「日本人も気づいて」

(5) スケボー愛

五輪の勢いに乗って／若気の至り勝手にコース／苦難支えた仲間輪／スター誕生夢みて／理解広かれ挑戦は続く

(6) 福島に笑顔を

「浪江ラブストーリー」／お調子者高座に落ち着く／小粒でもぴりりと辛い／浪江に寄せられて／笑顔届ける「師匠」の決意

(7) ダムが好き

興奮に満ちた出会い／生活は水瓶のたまもの／「女王」の放流心も清らか／カレーで親しみ広がれ／魅力まだまだいっぱい

(8) 夢の鉄道経営

公募で「へいちく」社長に／赤字1億「リスクはチャンス」／地元の人情窮地救う／観光列車晴れの日の舞台／挑戦は続くよどこまでも

(9) 孤立させない

住民とおしゃべり 異変確認／見守り 見守られ／「長屋のお隣さん」 原点／コロナ禍 勇気くれた手紙／近所の笑顔探し続ける

(10) 笑顔を撮る

「はい、チーズ」はNGワード／闘病の子前を向く／「パニック障害」 写真が支え／東北からウクライナへ／最高の1枚これからも

この電子書籍は、読売新聞東京本社版夕刊連載「しあわせ小箱」を再録したものです。掲載日は各回のとびらに記載しています。文中の肩書、年齢、その他の情報は、掲載当時のままです。

(1) 県境を越えて

(2022年1月24～28日掲載)

新たな世界への入り口

都心から電車で約1時間半。石井裕さん（42）が目指す場所は、東武日光線柳生駅（埼玉県加須市）に近い田んぼの中にあった。埼玉、群馬、栃木の「3県境」に設置された観光スポットだ。

自治体があぜ道を舗装し、周囲に砂利を敷き詰めた。経度や緯度を示す金属プレートが置かれ、記念スタンプを押すこともできる。「県境は山頂や河川にあることが多い。三つの県境で歩いて行ける所は珍しい」。石井さんの解説だ。

県境巡り歴20年の石井さん。ここを訪れたのも5回目くらいだ。たっぷり1時間ほど滞在し、県境の用水路をまたいでみたり、「前はベンチがなかったなあ」などと変化を楽しんだり。

プレートは2021年8月に盗難被害に遭い、現在は2代目。「県境の向こうとこっちでは、住所はもちろん、地域の文化や生活スタイルも変化する。県境は新たな世界への入り口なんです」。そう信じているから、心ない行為を残念に思う。

そう離れていない所には茨城・埼玉県境もある。石井さんは「この辺りに住んでいる人は何度も県境を行き来できる。うらやましい」としみじみ語る。

歩いて行ける県境は北海道、沖縄県を除く全国に存在する。次はどこに行こうか――。石井さんは思いを巡らせている。

*この続きは製品版でお楽しみください。

読売新聞アーカイブ選書

シリーズ「十人十色のしあわせ小箱」

「推し」の先に見えたもの

鉄道愛で3セク社長、ゲームに恋したフランス人……

発行日 2024年4月25日

著者 読売新聞東京本社 社会部

発行者 村岡彰敏

発行所 読売新聞東京本社

〒100-8055 東京都千代田区大手町1-7-1

URL: <https://www.yomiuri.co.jp/>

© 2024 The Yomiuri Shimbun

本作品の全部または一部を無断で複製、転載、改竄、インターネット上に掲載すること、および有償、無償にかかわらず、本データを第三者に譲渡することを禁じます。なお個人利用の目的であっても、コピーガードを解除しての複製は、法律で禁じられています。